

# 世界展開力強化事業 長期留学 第1回報告書

ブラジル連邦共和国 サンパウロ大学 (USP-ESALQ)

国際食料情報学部 食料環境経済学科 内海真登

## ・はじめに

私は4月中旬にブラジルに到着し早くも1ヶ月が経ち異国での生活にも少しずつ慣れ、ここでの生活にも落ち着いてきたところである。この1ヶ月を振り返ってみると、特にブラジルでの生活に慣れるに重点をおいて過ごした印象である。農大・国際協力センターの方々、サンパウロ大学の友人や先生方に支えられ、少しずつスムーズに生活出来るようになった。これからは、出発前にたてた留学計画を元に、実習や大学での学びを積極的に行い、今後の留学生生活をより豊かものにしていきたい。またこの報告書が、少しでもこれから長期留学を考える学生に役立てば幸いである。

## 大学での活動について

### ・留学先協定校について

私は8つあるサンパウロ大学のキャンパスの中でも、農学系の分野を専門とする”ESALQ”と呼ばれる場所に留学している。ESALQは南米で農学系のトップクラスの大学であり、様々な研究機関や設備が充実している。ESALQはサンパウロの中心地から車で2時間ほどかかるピラシカバという町に位置しており、大学の所有する土地は広大で試験農業や施設もほぼ全てキャンパス内に揃っている。

### ・具体的な活動について

ESALQでは授業の全てがポルトガル語で行われ、授業が3月から始まっていることもあり、私は前期の授業の履修はせず聴講とその他の活動に重きをおいて活動している。私の留学の目的はブラジル農業の加工・流通、特に持続可能な生産におけるそれらの分野に注目して学ぶことである。ESALQには分野ごとに様々な研究機関や学生中心の活動するグループがある。この1ヶ月間いくつかの研究グループを見学させてもらい、お話を聞くことでより自分の学びたい分野のグループを見つける事が出来た。

1つ目は5月から参加している、学生が中心となり大学周辺でアグロフォレストリーのシステムについて研究しているSAFというグループである。アグロフォレストリーはいくつかの作物を組み合わせ生産することで、相乗効果を生み持続的な生産を行う農法である。私は今後同じくアグロフォレストリーの成功事例地であるパラ州のトメアスにも実習する予定であり、ここでの研究はとても興味深いものである。SAFでは実際にアグロフォレストリーを実践する実習地を大学周辺に所有しており、毎週末に生産

状況や品質について調査するとともに、加工・流通についても調査している。私も今後このグループでの活動により深く関わっていきたい。

2つ目は **Esalq-log** である。こちらはまだまだあまり参加出来ていないが、ブラジルの農作物の流通について幅広く研究している機関である。今後は可能であれば、この機関でもさらに研究していきたい。

- ・ポルトガル語について

上述したように授業は全てポルトガル語であると共に、日常生活でもポルトガル語が必要となる為、毎日いち早くスムーズにコミュニケーションをとれるよう自習と日々の会話で学習している。出発前も多少言語の勉強はしてきたが、やはり現地の人との会話を理解するのはとても大変であり、今もまだ必死に単語を覚える日々を過ごしている。

## ブラジルでの生活について

- ・ヘプブリカ

ヘプブリカとは **ESALQ** の学生が住むシェアハウスのことである。数多くあるヘプブリカの中で私は現在、「**Poko loko**」という日系ブラジル人が中心に住むところで生活している。ここで既に去年の夏から留学している農大生の伊藤君や **Poko Loko** の学生にサポートしてもらいながら生活している。ヘプブリカは一緒に過ごす時間が長く、特に学生同士の仲が良いのが特徴である。毎週末にはシュハスコ（ブラジルの **BBQ**）があり、他のヘプブリカの学生や **Poko Loko** の **OB** の人達が来て、楽しく過ごしている。また **OB** の方は既に働いており、ブラジルにある日本企業に勤めている人も多く、貴重なお話を伺えることもあり、とても有意義な時間である。一方で1部屋は2,3人で共有し、ヘプブリカの学生と生活のリズムが異なる事もあり、初めのうちは難しい部分もある。いずれにせよ私もヘプブリカを生活の基盤に今後も **ESALQ** で過ごして行きたい。

- ・印象に残った事1

日本でも良く知られる5月14日の母の日に、**ESALQ** の友人の実家に泊まりに行きシュハスコに参加した事である。この日は母の日に加え友人の兄弟の誕生日会であり、盛大ホームパーティーが行われた。ブラジルは家族や友人をととても大切にす国というのが私のイメージだったが、今回その想像以上に家族友達との関係性が近いというのを実感した。まだまだポルトガル語を話せない私を暖かく家族の様に迎え入れてくれ、ブラジルに来て良かったと思うひと時であった。

## 最後に

この1ヶ月で生活に慣れる事は出来たので、これからは農大の **OB** の方や **ESALQ** の

先生・学生に協力してもらいながら、さらに内容の濃い実習や研究を行っていきたい。  
次回の報告書にはより専門的な研究や実習について書ければと思う。



Poko loko での写真



SAF の活動で新しい試験農場にバナナやコーヒーなどを植えている写真